

視点(1678)

ポストモダン経済下でのデフレ現象のメカニズム(その1)!!

(流通経済編)

## 1. 失われた 20 年の日本経済

1991 年のバブル経済崩壊後の日本経済は失われた 20 年と言われ、名目 GDP が 1991 年の 469 兆円と 2011 年の 468 兆円は同一で、この 20 年間の経済成長はなかったこととなります (途中の 1997 年と 2007 年の名目 GDP は 515 兆円)。

日本の潜在経済成長力は 2.0%程度とするならば、2011 年度の日本の GDP は名目で 697 兆円となり、現在 (2011 年・468 兆円) より名目で 229 兆円多くなければなりません。現在、日本経済の需給ギャップ (供給能力に対する需要能力の差) が年間 20 兆~40 兆円であり、これは名目 GDP の 4.3~8.5%となっています。ところが、この 10 年間に購買力平価 (物価の変動を考慮した実際に買える金額) は 1.25 倍上昇しています。すなわち、同じモノを買うならば 20%安く買えることとなります。経済学で言うところの「**デフレ現象**」が 1991 年のバブル崩壊後から現在まで引き続き起こっています。

デフレ (正式にはデフレーション) とは「モノの価格が下がり、通貨価値が上がること」であり、かつ「モノの部分的ではなく総合的にモノの価格が下がること」です。このデフレは、マイナスの需給ギャップ (需要<供給) により起こり、日本は原則的に 20 年間はマイナス需給ギャップの時代でした。このマイナスの需給ギャップが起こる要因は次の 2 つです。

①**第 1 のパターン**：短期的には、循環経済の中で経済の波が供給過剰 (需要不足) の段階で起こる要因 (国内要因と国際要因の 2 つの要因が存在します)

②**第 2 のパターン**：長期的には、市場の縮小 (人口動態等のマーケットの縮小) から起こる要因

日本の過去 20 年間 (1991~2011 年) のデフレ現象は、複数の要因が複合化した結果と思われます。我々日本国民は閉塞感や不安感や失望感はあるても、実質的には生活感は安定しています。すなわち、物価が下がり実質的な貨幣の価値は高まり、購買力平価で見ると実質的に所得は 1.25 倍に高まっています。

今、政府の財政政策 (政府の予算拡大による支出増) や金融政策 (日銀の金融緩和や低金利化) を行っても、一時的な効果しか出ません。現状のデフレを脱出するための大幅増の財政や大量の貨幣投入は、円安誘導や一時的な物価上昇には効果があると思われませんが、あくまで日本経済再生の第 1 歩 (でも、この第 1 歩を行わないと第 2 歩の長期的日本再生プランは生きてこない) です。

私は、流通・小売・S C の分野で経済を広義の流通から見る流通経済を研究しています。この流通経済の視点から日本経済のマイナスの需給ギャップを見ると、「第 3 のパターン」が見えてきます (六車流：マーケティング理論)。

③**第 3 のパターン**：広義のポストモダン消費が要因のマイナス需給ギャップ

日本は 1988 年に統計上のモノ離れが起こり、その後、1991 年に日本経済のバブル崩壊が起こりました。この段階で私は、消費の概念から「モダン消費 (モノを買い、モノを消費し、モノを使用し、モノを所有することの連続性を喜びと感じる生活向上志向の消費) の終焉」と呼んでいます。我々は、モノは有り余るほど持っており、もう従来型の商品はタンスの中に一杯になっています。アメリカでは 1970 年に統計上のモノ離れが起こり、日米ともにモノ離れが起こった後の 20 年間 (アメリカは 1970 年代~1980 年代、日本は 1990 年代~2000 年代) は不況 (マイナス需給ギャップ) になって、流通的にはバリュー業態 (ディスカウントストア、アウトレットモール、オフプライスストア、カテゴリーキラー、パワーセンター等) が出現して従来型商業に対する価格破壊が起こっています。

この消費の段階を広義ポストモダン消費 (モノ離れした後の消費) と呼び、従来の「景気によるマイナス需給ギャップ」や「市場の縮小によるマイナス需給ギャップ」とは異なる性格を持っています。

すなわち、デフレの経済学で言う従来の定義とは異なっています。

	全体的なモノの価格の低下	貨幣価値の上昇	備考欄
経済学上のデフレ	○	○	結果的に流通経済上のデフレは、貨幣価値は上昇するが、貨幣価値が上昇してからモノの価格が下がったのではない
流通経済学上のデフレ (広義のポストモダン消費デフレ)	○	×	

(流通と S C ・私の視点 1679 へ続く)

(株)ダイナミックマーケティング社<sup>+</sup><sub>6</sub>

代 表 六 車 秀 之